

二刀領談

下條正男



しもじょう・まさお 長野県出身。国学院大学院博士課程修了。1999年から拓殖大教授を務め、2021年3月末で退官。島根県第5

期竹島問題研究会の座長を務めた竹島研究の第一人者。23年3月まで本紙客員論説委員を務めた。拓殖大名誉教授、島根県立大客員教授。75歳。

ソウルの地下鉄駅などに設置されていた独島（竹島の韓国名）の模型を撤去した尹錫悦政権時代の政策を「独島消し」と非難し、日本を「敵性国家」と呼んでいた李在明氏。

ところが韓国大統領に就任すると言動が一変した。反日感情を利用して尹政権打倒を画策したが、日本には実用外交で臨むという。初めの言説を覆し、自分に都合よく状況を解釈して今度日本を利用（用日）しようとする姿勢は、サメをだまして一列に並ばせ海を渡ろうとした「因幡の白兔」を連想させる。

歴史問題を誘発

このご都合主義は李氏に限ったことではない。韓国の聯合ニュースなどの報道によると、新たに外相となった趙顯（チョ・ヒョン）氏は就任式前に取材に応じ、「日本社会がどのようにして今日のようなったのか、よく理解しなければならぬ」「過去史問題を、われわれが望むように圧迫するだけではない」「と述べたという。趙氏はその前の人事聴聞会でも「日本が自ら少しずつ変わっていくよう求めていくべきだ」と発言していた。

これは、これまでの日本が韓国側の外交攻勢に安易にに応じてきたことを示している。歴史教科書問題での「近隣諸国条項」、慰安婦問題での「河野談話」、そ

日韓の「因幡の白兔」



韓国の趙顯外相（右）を出迎える岩屋毅外相＝7月29日、外務省

領土問題巡り言動変化

の延長線上にある「村山談話」。日本は歴史の事実を明らかにする前に軽々に反応して言質を取られ、それがまた次の歴史問題を誘発してきたのである。

趙氏の発言には韓国側の対日姿勢が表れている。自らは絶対に正しく、間違っているのは日本側だという前提に立ち、日本側を変えていくことで問題の解決を図ろうとしているのだ。

■韓国の石破人気

韓国では石破茂首相の人氣が高い。石破氏が2017年5月、韓国の東亜日報のインタビューに答え、慰安婦問題は「韓国が納得するまで謝罪しなければならぬ」と述べたため。24年

そこに史実に基づかない「河野談話」が出され、95年に戦後50年談話として発表された「村山談話」の中に「わが国は、遠くない過去の一時期、国策を誤り、戦争への道を歩んで国民を存亡の危機に陥れ、植民地支配と侵略」とあったことで、以後「植民地支配」が独り歩きを始めた。

この頃の日本は韓国によって竹島を不法占拠された上、92年に制定された中国の「領海法」で沖繩県・尖閣諸島が中国領とされていた。竹島も尖閣諸島も、日

9月28日の東亜日報（電子版）でも報じており、見出しは「日本の新首相に『知韓派』石破茂氏、韓日関係『コップの残りの半分』を満たさなければ」だった。

石破氏を「保守的な自民党の中で、穏健な歴史認識を持つ人物として知られている」とし、韓国側が望む歴史認識に添えてくれる人物と見ているのである。

慰安婦問題の発端は、1990年に自民党の金丸信氏と社会党の田辺誠氏が訪朝した際、北朝鮮側に対し「戦後補償」を語ったことにある。日韓の国交正常化交渉で議題にならなかつた問題を粗（あら）に載せる契機となったが、韓国政府は当初、外交交渉の対象にするつもりはなかった。

本国家主権に関わる問題である。尖閣諸島周辺海域では石破政権となつても中国海警局の艦艇が居座り、確認は4日で259日連続となつた。竹島も韓国に占拠されたままである。

石破氏は竹島と尖閣諸島に対して、2012年8月17日のブログで大変立派な発言をしていた。同月10日に韓国の李明博大統領が竹島に上陸し、15日に香港の活動家らが尖閣諸島に上陸した際の民主党政権の対応を批判したものだ。

だが、首相に就任した石破氏はブログでの言説を忘れ、中国や韓国政府に対しても物言いを怠っている。これでは「因幡の白兔」と同じである。